



「発達が気になる子どもと家族を地域で支える ESSENCEチーム※による地域支援」事業

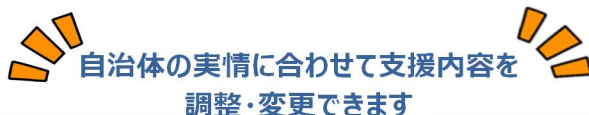
※ESSENCEチーム：心理士、リハビリテーション職などからなる専門職チーム

ESSENCEチームが地域におうかがいし、地域の支援者(保健師や保育士等)とともに、発達が気になる子どもの支援のシステムづくりを行っています。

この事業では、クリストファー・ギルバーク教授が提唱している ESSENCE※の徴候を確認していくために、ESSENCE-Qを使用して、子どもの発達や必要な支援について考えていきます。

※ESSENCEとは、Early Symptomatic Syndromes Eliciting Neurodevelopmental Clinical Examinationsの略で、お子さんの発達に関して、専門職による定期的な観察や何らかの支援を必要とするような状態のことを言います。ESSENCEの徴候は、発達期の早期（0歳～5歳ごろ）からみられると言われています。

= 内容 =



乳幼児健診のスーパーバイズ

発達の見立てや健診後のフォローについて、より良い方法の検討を行う。

- ・子どもの発達の見立て
- ・問診の取り方
- ・健診後の支援プラン
- ・健診会場の環境調整

など

保育所のコンサルテーション

子どもの発達の見立てを行い、個に合わせた支援や、環境調整について検討する。

- ・視覚支援
- ・感覚への配慮
- ・食具、椅子や机の調整
- ・集団場面での関わりの工夫

など

ESSENCE の視点

支援者のスキルアップ研修

- ・ESSENCEに関する勉強会
- ・ティーチャーズトレーニング

など



家庭支援事業のサポート

- ・相談会等のスーパーバイズ
- ・研修型ペアレントプログラムの実施

など

= 実施自治体からの声 =

- ・健診で、ちょっと気になる子どもの発達に気付き、見落とさなくなりました。(保健師)
- ・ESSENCE-Qを使って子どもを見立てることで、支援者間で共通認識を行いやすくなりました。(保健師)
- ・保育所とのやりとりや支援も、スムーズになってきたと思います。(保健師)
- ・子どもの育ちで気になっていたことが、ESSENCE-Qを使うことで、項目ごとに掘り下げて考えられるようになってきました。(保育士)
- ・子どものサインを受け止め、「何がこうさせているか」と考えるようになり、職員同士が子どもの発達について話し合う機会が増えました。(保育士)
- ・保育所全体で同じ方向性をもって子どもを支援していくことができるようになってきたので、保育者間での連携が取りやすくなっています。(保育士)

身近な地域で

さまざまな親子をサポートしていく地域の仕組みづくりを一緒に考えていきます

お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

※実施自治体を募集しています。



高知県立療育福祉センター 高知ギルバーク発達神経精神医学センター

☎ 088-844-2021

✉ kochigillberg@ken.pref.kochi.lg.jp